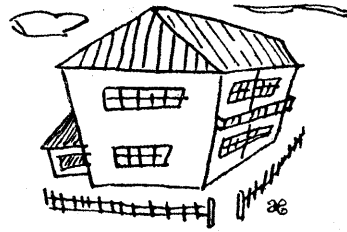


米国における

幼児教育協会

全国大会に参加して



黒田成子

一九五四年四月十八日より二十三日迄米ミネソタ州のセントポール市で A C C E I (Association for Childreared Education International) 国際幼児教育協会の大会が開かれた。世界十六ヶ国から児童教育に関係した者達が集まり、二千三百人を越える盛会であった。当時筆者はイリノイ州、ナショナル教育大学の大学院に留学中であった為唯一人の日本人として出席する機会を得た。大会はスタ

デーカンファレンスと称し Effective Education for All Children の示す如く世界の総ての子供達の為により効果的な教育を願うことを研究する精神をもってつらぬかれた。アメリカを旅する者は「選択」という事度々しなければならぬ事を経験する。食事に招かれるとかならず飲物はコーヒーと紅茶とミルクのどれかを選ぶ。キャフテリアに入っても「何でも結構です」などと揉み手をし

ていては半日経っても食事に取りつけない。此の大会でも二千三百人余の代員をまかなう大会であるからプログラムは実に豊富で変化に富んでいた。同時刻に異った場所次第々と進められているので遊興半分の代員は別として最大の収穫を得て帰りたい者にはまことに注意深い選択を要した。夜はいつも社交的な催しがあり、外国人の私達は遠来の客として度々引張り出された。地区別の晩餐会もあり、食卓をはさんで意見の交換等さかに行われた。会期中最も時間をついやしたのは研究分団であった。これは二十六部門あり、各 A (六才以下) B (六才~九才) C (九才~十二才) の三グループを設けたので全部で七十二のグループに分れた。毎日午後三時から五時まで二、三のホテルのいくつかの部屋で協議会が開かれた。各グループにはあらかじめ定められたコーディネーターと発題者と記録係とが居た。研究の題目としては次のようなものがあつた。(一部分)

児童の経験を如何に取扱うか

教師と生徒の協同計画

児童と文学

コミュニケーション（主にラジオ、テレ

ヴィジョンフィルム）

児童のインデペンデント・スタディー

学校と家庭の協力

児童の自己理解を求める為の指導

教師の自己理解を求めるため

教場に於ける児童研究

レポーター

個人差

学校に於ける精神衛生の実際問題

その他、算数、科学教育、音楽、美術

リーディングに関するものであった。（こ

の読み方のグループを希望する者が非常に

多いのでグループを倍加した。指導者はコ

ロンビヤ大学のガンス女史であった）

グループの数であった為敏腕のリーダーに

当たった者が収獲が多かったのに反し、得る所

の少いグループもあったようだ。

毎日五ヶ所に「相談の時間」という会合が

あり、各自の問題を持寄って協議した。規模

の大きい集会があるかと思えばごく少数数の支部会もあった。これは会員数の大小により

十二の会に分れ、経済、行政その他の方針、

等について議した。学生の部会も開かれた。

教育の材料になる映画を映写してこれにつ

いて討議する会は相当人気があったようだ。

教師達はこういう大会でよい材料を検討して

各地へ帰った後、映画やスライド等を借り出

せる聴視覚材料のある図書館を盛に利用する

という事である。

展示会は四十七の製造会社と五十二の出版

会社がACEIと協力して成立させたもので

あった。出品の保育材料、玩具等はACEI

の研究会で試験済みのものが沢山あり、絵画

書籍、楽器、積木、玩具、科学材料、聴視覚

材料等を日によって展示された。どの業者も

物品を提供し、会期後はこれを社会事業施設

へ寄附する事を申出でたのみならずこの大会

に代員も送っている。それは取る為ばかりで

なく、直接児童に接触している現物の教師達

と思想の交換をする為であるとの事。そうい

えば会場の片隅で有名人の先生を囲んで玩具

についての話しあいがある中、セー

ルスマンらしき人もちらほら見えた。

大会中の山は何といつても米国教育界でよ

く知られた三博士の講演であった。ミシガン

大学のオルソン博士は「子供達は如何にして

学ぶか？」という題のもとに最近テレヴィジ

ョンで好評を博している氏独特のチャートや

掌大の人形等を使用して平易に話された。両

親教育の分野で活躍される所以もうなづかれ

る。児童の欲求を理解する為如何に身体的

知的、社会的、情緒的発達を知る事が大切で

あるか。又従来は児童の成績物に点数をつけ

る事によって勉強に対する刺激を促進させ得

ると考えられていたが、これはいたずらに児

童の均衡性を失わせるファクターを助長させ

ていたに過ぎなかつた事、子供が何か一つ学

ぶにしても成熟を待つ事が如何に大切である

か、又その子供自身のもつ力や速度を標準と

する事の重要さを力説された。

ウェイン大学のケリー博士は学者らしい明

確さをもつて「最も効果的な教育とは何か？」

「過去二十五年間に児童研究、心理学、生物学、人類学の研究が幼児や児童の行動、心理等を理解する上に大いにあづかつて力となつた。……今や我々は根本的問題に直面させられてゐる。我々は子供達に単なる知識を

「教授」するのでなく、子供達の全人格に影響を与える事の方がどんなに大切であるかを考えなければならぬ。我々は口では進歩的教育を唱え乍ら実はまだまだ無意識のうちに權威をふりまいていないだろうか。我々は静かに坐つてゐる所謂お行儀のいい子供を造り出すのが目的か、それとも機械のように速く上

会が個人の価値が尊ばれ、創造と自由が培われる社会であるか、それとも暗い權威がはびこつてゐる社会であるかすぐ感づいてしまふ。子供達に勇氣と協同と愛情とを望むならば、我々自身もそれらのものを身につけて行かなければならぬ。」

響きと重大な事がある。それは先ず子供が何を目的としてゐるかという事を考え、彼を理解しようとする事である。そうすれば私達は心配が生じるどころか、かえつて子供に安定感と暖いはぐくみの氣持を与える事が出来る。ひいては子供から驚くべき協力を得られる。教師も両親も子供達の前に立つて正直であらねばならない。子供であるからといって程度を落したり割引したりは出来ない。大人が人

又多数の教育書のベストセラーをもつて知られるハイム博士は溢るるばかりの人間味をたたえ乍ら多くの実例をもつて「子供は何を考へ何を求めているか」という問題について語られた。

以上の他に会長ウドロフ女史は「米國に於ける協同ナースリースクールについて」といふ講演を行い、地域社会との關係、両親達と教師との問題等が取上げられた。

に坐つてゐる所謂お行儀のいい子供を造り出すのが目的か、それとも機械のように速く上るのか。もし真に人間らしい子供を目的としてゐるならば、我々の関心は「子供は生き甲斐を感じて、たのしい経験をしているか、彼らは興味を持つて喜んで知識を吸収しているか」という点にある筈である。協同生活の出来る、又困難に遭遇してもすぐ挫けない所の自分を人も信頼出来る子供がほしい。この教育は搖籃の時代から始まる。赤坊は何もわからない様でも、彼は自分が生れ落ちた社

「私達大人は子供に対していたづらに無用の心配やフラストレーションを起す前にもつと重大な事がある。それは先ず子供が何を目的としてゐるかという事を考え、彼を理解しようとする事である。そうすれば私達は心配が生じるどころか、かえつて子供に安定感と暖いはぐくみの氣持を与える事が出来る。ひいては子供から驚くべき協力を得られる。教師も両親も子供達の前に立つて正直であらねばならない。子供であるからといって程度を落したり割引したりは出来ない。大人が人

これを結ぶ協同精神について話された。現在アメリカでやかましくいわれてゐる事は子供達が民主的な社会生活を営む一員として、自ら進んで協力をして行くものとなるためのガイダンスが最も必要であるという事である。この複雑な社会に於て人間が人間としての正しい生き方をして行くにはどうしたらよいか、それは將來の問題としてでなく、現在の子供達の生活を通して實際に指導されたい。教授法を通り越して最も根底の問題まで追求して行こうとしてゐる米國の学者、教

師達の真摯な態度には敬服の念を抱かせられた。

オハイオ大学のザーブズ女史が閉会に當つて挨拶された。「子供達のより効果的な教育を願つて世界中から集つた者達が此処を散ずるに當つて考えなければならぬ使命は、この場所と交流して得たものをこれから出来る丈多くの人々に分ち合い、至る所で児童教育の標準を高める為に尽力する事である。」と結ばれた。

この意義ある大会が終つて半年後、日本では台風十四号が本土へ上陸するという朝、私は二年ぶりで祖国の土を踏んだ。昔ながらの自然の美しさ、殊に山々の緑の濃淡は私の目にも心にも泌みわたつた。それにひきかえて何かしら類騷的な巷の姿には唯おどろくばかりであつた。又教育界では折角伸びて来ていた「社会科」が軽視され、以前の職業教育、一律教育に関心が高まっているという事を聞いた。眞の教育意義を見落した多数の幼稚園が急増加している事をも知つた。

かかる時代にあつて将来の日本国民を育て

る任務に當る我々教師、大人達の反省が今こそ必要ではなからうか。我々は一体何に最も価値をおくか。そして先づ子供達を理解しようとしなければ本末顛倒の姿そのままに進はないと思つた。

なお、次会ACEI大会は一九五五年、四月十一日より十五日迄米國キャンサス市に於て開かれる。主題は「子供達に焦点をおいて」である。

(東洋英和短期大学講師)

日本私立幼稚園連合会編纂

全国私立幼稚園名簿

B五判 一二〇頁 価一五〇円

一六六円

全国国立幼稚園長会編

全国国立幼稚園名簿 (近刊)

B五判 六四頁 価一二〇円

一六六円

発売所

株式会社

フレールベル館

正月さん

正月さんどこまでいらした、

山のころ橋の下までいらした、

お土産はなんやつた、

榎や勝栗、蜜柑柑子、たちばな、

犬のふんだ年餅、

猫のふんだ粥餅、

あまの裏の串柿。(加賀)

*

正月さん、正月さん、

どこまでいらした、

稲葉の橋までいらした。

杖に味噌つけねぶりねぶりいらした。(美濃)

*

お正月さんはどこまでいらした、

羊歯を蓑に着て、

つるの葉を笠に着て、

門杭を杖についで、

お寺の下の柿の木にとまった。(伊予)

—— わらべうた ——